The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	出原隆俊教授略歴・論著目録
Author(s)	
Citation	語文. 2017, 106-107, p. 170-176
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/70992
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

出原隆俊教授略歴

一九五一年五月　大阪府貝塚市に生まれる。

〈学歴〉

一九七〇年三月　大阪府立三国ヶ丘高等学校卒業
一九七七年三月　京都大学文学部国語国文学専攻卒業
一九七九年三月　京都大学大学院文学研究科国語国文学専攻博士前期課程修了
一九八一年三月　京都大学大学院文学研究科国語国文学専攻博士後期課程中退
二〇一〇年一一月　博士（文学）（大阪大学）

〈職歴〉

一九八一年四月　広島女子大学文学部講師
一九八四年四月　広島女子大学文学部助教授
一九八六年四月　京都教育大学教育学部助教授
一九八九年四月　大阪大学文学部助教授
一九九九年一一月　大阪大学大学院文学研究科教授

〈非常勤講師歴〉

京都大学文学部、九州大学比較社会文化研究院、岡山大学教育学部、愛媛大学法文学部、奈良女子大学文学部、京都教育大学教育学部、京都府立大学文学部、大阪女子大学文学部、大阪府立大学人間社会学研究科、京都女子大学文学部、同志社大学文学研究科、同志社女子大学文学部、龍谷大学文学部、神戸女子大学文学部

〈学会等役員〉

日本近代文学会

評議委員（一九八八年四月～二〇一六年三月）

運営委員（二〇〇〇年四月～二〇〇二年三月）

編集委員（二〇〇三年四月～二〇〇五年三月）

出原隆俊教授論著目録

〈著　書〉

（単著）『異説　日本近代文学』	二〇一〇年一月	大阪大学出版会
（単著）『二百十日・野分』	二〇一六年一一月	岩波書店
（共著）『漱石全集』第三巻	一九九四年二月	岩波書店
（共著）『新日本古典文学大系　明治篇　キリスト者文学集』	二〇〇二年一二月	岩波書店
（共著）『鷗外近代小説集』第五巻	二〇一三年一月	岩波書店

〈論　文〉

「蓬莱曲」考―「塵の形骸」の「義の児」―	一九七九年一二月	「国語国文」四八巻一二号
透谷におけるドイツ文学評論の受容について ―人生相渉論争への一視界―	一九八一年五月	「国語国文」五〇巻五号
「他界」と「崇高」―人生相渉論争開幕前夜の検討―	一九八二年八月	「国語国文」五一巻八号
人生相渉論争開幕の周辺	一九八二年一〇月	「日本近代文学」二九集
透谷における「ハムレット」受容の意味について ―人生相渉論争の底流―	一九八三年六月	「国語国文」五二巻六号
洋行と〝からゆき〟―反「舞姫」小説の位相―	一九八五年三月	「文学」五三巻三号
〈無気味〉の系譜―明治二十年代前期文学の一端―	一九八五年一一月	「文学」五三巻一一号
岡保生『近代文学の異端者』	一九八五年一二月	「國文学」三〇巻一五号
小泉浩一郎『森鷗外論　実証と批評』	一九八五年一二月	「國文学」三〇巻一五号
蓮華寺の鐘―『破戒』読解の試み	一九八七年一月	「国語国文」五六巻一号
『破戒』・「蒲団」の周辺 ―教師・腰弁・空想・自意識―	一九八七年六月	「京都教育大学国文学会誌」二二号
明治の社会主義文学	一九八八年六月	「國文学」三三巻七号

反戦文学の系譜	一九八八年六月
大逆事件と文学	一九八八年六月
お力の登場―「にごりえ」における〈借用〉について	一九八八年七月
近代文学と「東京」 鷗外の場合	一九八九年五月
鷗外とその時代・都市（都市問題・市区改正）	一九八九年一〇月
「源叔父」の方法	一九九〇年一一月
「たけくらべ」の成立基盤	一九九一年一二月
「舞姫」私読―「罪と罰」と比較しつつ	一九九一年一二月
〈ユートピア〉の諸相	一九九二年六月
中上健次『奇蹟』	一九九二年九月
村田喜代子『鍋の中』	一九九二年九月
「にごりえ」の〈彼の人〉	一九九四年四月
透谷とドイツ哲学・文学評論	一九九四年五月
森鷗外『青年』―時代思潮の中の小泉純一	一九九四年六月
《樋口一葉》の小説作法（さくほう）	一九九四年一〇月
「闇夜」の背後	一九九五年五月
『十三夜』を統合するもの―《擦れ》の機能―	一九九五年六月
甦える古語―ウツシヨの行方	一九九六年九月
《典拠》と《借用》―水揚げ・出奔・《孤児》物語	一九九六年一一月
「貧民倶楽部」の周辺	一九九七年三月
鷗外が多用する表現について ―「山椒大夫」を中心に―	一九九七年五月
〈下層〉という光景 ―荷風「あめりか物語」、「ふらんす物語」の一面	一九九七年九月
小六という〈他者〉―御米と火鉢	一九九七年一一月

「國文学」	三三巻七号
「國文学」	三三巻七号
「文学」	五六巻七号
「日本近代文学」	四〇集
「別冊國文学」	三七号
「語文」（大阪大学）	五五輯
「国語国文」	六〇巻一二号
「待兼山論叢」（文学篇）	二五号
『日本文学史を読む』（世界思想社）	
「國文学」	三七巻一一号九月臨時号
「國文学」	三七巻一一号九月臨時号
「文学」	五巻二号（一九九四年春）
『透谷と近代日本』（翰林書房）	
「國文学」	三九巻七号
「國文学」	三九巻一一号
「日本近代文学」	五二集
「国文学解釈と鑑賞」	六〇巻六号
「國文学」	四一巻一一号
『論集樋口一葉』（おうふう）	
「叙説」	二四号
『講座・森鷗外』二（新曜社）	
『異文化との遭遇』（笠間書院）	
『漱石研究』九（翰林書房）	

鷗外と漱石　一九九八年一月
「半日」　一九九八年一月
鷗外作品における〈狂気〉　一九九八年一〇月
丸谷才一　一九九九年二月
村田喜代子　一九九九年二月
「誰も知らぬ」試論―太宰の鷗外受容の一端　一九九九年六月
『優しいサヨクのための嬉遊曲』―八〇年代の「遅れてきた青年」の戦略　一九九九年七月
「高瀬舟」異説　一九九九年九月
洋行エリートたちの見た夢　二〇〇一年四月
〈心〉と〈外部〉―漱石作品の一端　二〇〇二年三月
「春」の背景―『透谷全集』と風葉『青春』―　二〇〇二年九月
透谷と鑑三・透谷と愛山の一側面　二〇〇二年一二月
『都の花』と『なにはがた』―〈関西文人〉の位置　二〇〇三年三月
「明暗」論の出発　二〇〇三年三月
三島作品における〈内部〉と〈外部〉―「金閣寺」を中心に　二〇〇四年二月
作家の妻という問題―〈森しげ〉の作品を中心に　二〇〇四年三月
〈内部〉と〈外部〉という問題―日本近代文学の一面　二〇〇四年四月
泉鏡花作品における〈内〉と〈外〉―〈魔〉を中心に　二〇〇四年七月
一葉小説における〈仕草〉―「わかれ道」を中軸に　二〇〇五年一一月
透谷用語の在りか―「罪と罰」批評について　二〇〇六年三月
透谷における〈内部〉と〈外部〉　二〇〇七年六月
Kの代理としての私　二〇〇七年一〇月

「國文学」四三巻一号
「國文学」四三巻一号
「語文」（大阪大学）七一輯
「國文学」四四巻三号臨時号
「國文学」四四巻三号臨時号
『太宰治研究』六（和泉書院）
「國文学」四四巻九号
『森鷗外研究』八（和泉書院）
週刊朝日百科『世界の文学』九一
大阪大学大学院文学研究科広域文化表現論講座共同研究研究成果報告書『〈心〉と〈外部〉―表現・伝承・信仰と明恵『夢記』』
『島崎藤村研究』三〇（双文社出版）
『キリスト者文学集』（岩波書店）
「阪大近代文学研究」創刊号
「国語国文」七二巻三号
「語文」（大阪大学）八〇・八一輯
国文学解釈と鑑賞別冊『女性作家《現在》』（至文堂）
「国語と国文学」八一巻四号
「文学」隔月刊五巻四号
「国語国文」七四巻一一号
国文学解釈と鑑賞別冊『北村透谷―《批評》の誕生』（至文堂）
『北村透谷研究』一八（有精堂出版）
「国語国文」七六巻一〇号

―「心」における言葉の〈連鎖〉について　二〇〇七年一二月　「語文」（大阪大学）八九輯
裏側から読む「心」　二〇〇八年三月　大阪大学大学院文学研究科広域文化表現論講座　二〇〇五～二〇〇七年度共同研究報告書『テクストの生成と変容』
芥川「疑惑」と鷗外・志賀直哉　二〇〇九年二月　『三島由紀夫研究』七（鼎書房）
「金閣寺」の構成意識　二〇〇九年三月　日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト研究事業　研究領域Ⅴ-3　文学・芸術の社会的媒介機能「芸術とコミュニケーションに関する実践的研究」研究報告書
郊外と貧民窟　『文学・芸術は何のためにあるのか』（東信堂）
芸術は社会を動かせるのか？　二〇〇九年三月　『旅立ちのかたち』（和泉書院）
欧州へ―「舞姫」から「新生」まで　二〇〇九年一一月　「阪大近代文学研究」九号
横光の鷗外翻訳作品等の利用について　二〇一一年三月　『太宰治研究』一九（和泉書院）
「愛と美について」と高木貞治述『過度期ノ数学』　二〇一一年六月　「香椎潟」五六号
芥川の鷗外受容の一面　二〇一二年三月
―『偸盗』・『孤独地獄』と『黄金杯』・『百物語』―
〈傍観者〉の系譜　二〇一二年六月　「語文」九八輯
『鼠坂』の周辺　二〇一三年一月　「文学」隔月刊一四巻一号
それでも〈日記〉を記すこと　二〇一三年四月　『森鷗外『舞姫』を読む』（勉誠出版）
―『舞姫』の手記の実態について
「廓内の帰り」は朝帰りか？　二〇一五年三月　「阪大近代文学研究」一三号
―「たけくらべ」注釈をめぐって―
「猿ヶ島」小考―「俊寛」に触れて―　二〇一六年六月　『太宰治研究』二四（和泉書院）

〈書　評〉

関礼子著『姉の力　樋口一葉』　一九九四年四月　「國文学」三九巻五号
尾西康充著『北村透谷論―近代ナショナリズムの潮流の中　一九九八年九月　「日本文学」四七巻九号

で』

北川秋雄著『一葉という現象―明治と樋口一葉―』　一九九九年一〇月　「日本近代文学」六一集

山田俊治・十重田裕一・笹原宏之編著『山田美妙『竪琴草紙』本文の研究』　二〇〇一年一月　「國文学」四六巻一号

山田有策著『深層の近代　鏡花と一葉』　二〇〇一年一二月　「泉鏡花研究会会報」一七号

佐々木雅発著『独歩と漱石　汎神論の地平』　二〇〇六年一一月　「日本近代文学」七五集

〈学会時評〉

春季大会印象記　一九八六年九月　「日本近代文学会会報」六五号

平成九年（自1月至12月）国語国文学界の展望（Ⅱ）〈近代〉森鷗外　一九九八年一〇月　「文学・語学」一六一号

秋季大会印象記　二〇一〇年四月　「日本近代文学会会報」一一二号

〈随　想〉

東京にいたということ　一九八四年八月　「広島女子大国文」創刊号

〈語部〉を訪ねて（特集・原爆と私）　一九八五年八月　「広島女子大国文」二号

賀茂泉　礼賛（特集・友久先生を送る）　一九八八年八月　「広島女子大国文」五号